

各種連盟



- ・北海道社会人サッカー連盟
- ・北海道自衛隊サッカー連盟
- ・北海道クラブユースサッカー連盟
- ・北海道シニアサッカー連盟
- ・北海道学生サッカー連盟
- ・北海道専門学校サッカー連盟
- ・(一社)北海道フットサル連盟
- ・北海道ビーチサッカー連盟

ブロックリーグ再編の 課題とJFL昇格への期待

平素より本連盟の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

今年度より、北海道サッカーリーグの下に位置する、ブロックリーグが再編され、3ブロックで実施することとなりました。他の種別は5ブロックで実施しているリーグ戦ですが、1種では地域によって登録チーム数にばらつきがあるため、数年前から4ブロックで実施していましたが、更なる登録チーム数の減少により再編を余儀なくされた形となります。

ただ再編により、道北地区と道東地区を同一ブロックとしたことにより、試合会場までの移動距離が長くなったことによるリスクが高まった事は懸念される事項であります。

JFAがリーグ戦の実施を推奨するようになってからは北海道において地区間の移動距離の長さが種別を問わず問題となっていると思われ、移動におけるバス代の高騰やレンタカー利用の是非などの課題があります。他にも長距離移動に係る身体的負担等もあり、移動を伴う上位リーグへの参戦を希望しないチームもあるのが現状です。

そのような理由も含めて、登録チーム数が減少している半面、JFL昇格を目指すチームが北海道リーグに3チーム存在していることは喜ばしい事です。

上位リーグを目指すチームが多ければ多いほど、チーム間での競争意識が高まり、リーグ全体のレベルアップに繋がるのではと期待しております。

また、シーズン移行に伴うJクラブのキャンプ地誘致が進めば、Jクラブとのトレーニングマッチなど更なるレベルアップが見込まれるのではと思います。

北海道初のJFL昇格を目指し、連盟においても競技環境の向上などに尽力していきますので、関係の皆様においても、引続きのご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



北海道社会人サッカー連盟
理事長 大橋 穰

50年の歩みを礎に、 次なる飛躍へ



本連盟は昨年50周年を迎えることができました。これも、これまで運営にご協力いただいた北海道サッカー協会、各地区協会、審判の皆さまの支えがあつて成しえることができたことであり、心より感謝いたします。

今年はワールドカップイヤーです。現在の日本代表には大学サッカーで活躍した選手も数多く選ばれています。このことから、日本の大学サッカーは、日本のサッカーレベルを押し上げる原動力の一つとなっています。北海道の学生サッカーからも毎年Jリーグ選手が出てきています。しかしながら、まだまだ全国とのレベル差があり、夏の総理大臣杯、冬のインカレとも、代表チームはなかなか勝ち上がるのに苦戦をしています。そういった現状もあり、トップチームのレベルアップのためにも、北海道の学生サッカー全体の底上げが大きな課題となっています。ここ数年は、どのような強化や環境を設けることが競技力の向上となるのか、毎年試行錯誤をしています。

一方、審判員の養成を見ると、学生サッカー連盟審判部に所属する審判は活躍の幅を広げています。昨年は史上初めて、インカレ決勝試合で北海道学生サッカー連盟審判部所属の学生が主審を務めるという快挙を成し遂げました。すなわち、各地域から選ばれた学生審判の中で、最も良い評価を得られた結果とも言えます。このことは、現在、審判部に所属する学生にとっても良いロールモデルとなっており、ぜひ後に続いてもらいたいと思います。

大学生のサッカーにとって、もちろん技術や競技力のレベルをあげ、チームが強くなることを目標にすることが重要ですが、学生サッカーの存在意義は、そのプロセスの中で人間力を養い、高めってもらうことにあると考えています。単に勝負の勝ち負けだけではなく、チームという組織が目標に向かい、計画、準備、努力し、お互いを助け合うことでチームプレーを学ぶ。そういった経験から、将来社会に出た際に、地域社会をより良くするために貢献できる人材を輩出することも学生サッカーの重要な目的です。本連盟では、学生が北海道でサッカーというスポーツを通して、将来日本の全国各地で活躍できる人材となるよう指導していきます。今年も皆様のご支援よろしくお願いいたします。



北海道学生サッカー連盟
理事長 濱谷 弘志

千歳基地連覇と 全国大会での今後の対策

2025年度全道自衛隊サッカー大会は10月18日(土)～10月19日(日)千歳市臨空公園サッカー場及び青葉公園サッカー場にて開催されました。参加チームは昨年と同じく4チームの参加トーナメントで行われ千歳基地サッカー部が28回目の優勝を飾りました。今年についても全国出場2チーム派遣となり千歳基地と滝川チームが参加しました。海上厚木マーカス(神奈川県)が6連覇で優勝しました。北海道2代表は決勝ラウンドへは進出できませんでした。反省事項等ではありますが60回大会に期待します。やはり上位チームは常連ぞろいで、層の厚さを感じました。特に驚いたことに同ブロックに北海道チームの2チームが組合せだったことで、正直言って大会の組織運営側に疑問を持ちました。組織的に防大OBの現役の幹部の方々が持ち回りで実行委員となっており大会のたびに組合せ方式とか大会の規定が変わっていきます。仕方ないところかもしれませんが公平な条件でやってほしいものです。

北海道チームも選抜・補強すれば勝機はあると思いますが、次年度に向けての対策を検討したいと思います。

全国自衛隊サッカー大会



北海道自衛隊サッカー連盟
理事長 小澤 義則



そして未来へー北海道 専門学校サッカーの挑戦

北海道専門学校サッカー連盟は、1991年4月24日に誕生しました。本連盟は、「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校教育の充実、親睦に寄与する」という目的でスタートしました。現在では各種大会運営に関わり、他の種別とも様々な面で協力しながら北海道のサッカー活動の発展に貢献できるよう取り組んでおります。しかし近年では少子化等の影響により、選手・チーム数の減少が著しく見える形となってきたのが現状です。

昨年度は連盟主催事業であります春のリーグ戦、夏の選手権大会、の2つの事業を少ないチームながら実施することができました。選手権大会は全国予選を兼ねており、今年も北海道スポーツ専門学校が予選を勝ち抜き、全国大会へコマを進めました。宮城県松島フットボールセンターで行われた「文部科学大臣杯争奪第35回全国専門学校サッカー選手権大会」では残念ながら群馬県代表チームに敗れ初戦敗退となりました。これは参加チーム数減少に伴う公式戦の減少も要因にあるかもしれません。2026年度は大阪府堺市の堺市立ナショナルトレーニングセンターで開催されます。北海道代表チームが悲願の優勝を目指して、学生たちの環境を準備していきたいと考えます。

専門学校連盟から巣立った選手たちが次のステージで北海道サッカーに貢献できるよう尽力してまいりたいと思います。



北海道専門学校サッカー連盟
理事長 三谷 直人

北海道クラブユースサッカー連盟の 現状・課題と展望

広大な大地で育てる サッカーの可能性



北海道クラブユースサッカー連盟は、北海道内のクラブチームによるU-15・U-18年代を中心とした育成・競技環境の整備を担う組織であり、各種大会を通じて選手の育成と競技力向上に取り組んでいます。

近年はU15クラブ選手権全国大会も札幌圏を中心に開催し、全国レベルのチームと地元地域クラブとの連携も増え、多くの選手が全国レベルを体験出来る機会を得ています。

一方で、北海道特有の課題も多く抱えており、広大な地理的条件による移動負担や、各地域間の距離が長いため、リーグ戦や大会参加に伴う交通費や宿泊費がクラブや保護者に大きな負担となっている。

また、少子化や人口減少の影響により、特に地方地域では選手確保が難しくなり、チーム運営そのものが課題となっている地域も出てきている。

今後の展望としては北海道全域で安定した育成環境を構築し、地域格差を縮小しながら選手育成の質を高めていくことが期待されます。さらに、女子クラブユースの普及や指導者養成の充実、デジタル技術を活用した育成支援体制の整備などにより、より多くの子供たちが質の高いサッカー環境に触れられる仕組み作りが必要になってくると思います。

また、地域に根差したクラブづくりを推進し、競技力向上だけでなく、地域スポーツの発展にも貢献することが重要になってくると思っています。



北海道クラブユースサッカー連盟
理事長 大年 貴之

エスポラーダF1復帰と 選抜チームの新たな挑戦

2025-2026シーズン最後のイベントが3/29に終了し、当連盟の事業がすべて無事終了しました。各種事業の参加チームと選手、運営に携わっていただいたスタッフや審判員、全ての方々にこの場をお借りし、深く感謝を申し上げます。

振り返ると、競技団体として精力的に活動できたシーズンだったと自負しています。

北海道で一番のビッグトピックスは、何と言ってもエスポラーダ北海道のディビジョン1への復帰です。シーズン終盤の数試合はハラハラドキドキの連続で最終戦の北ガスアリーナ札幌46では、3,200人の観客が固唾をのんでディビジョン2での優勝決定を見守り、その瞬間を全員で歓喜したシーンは忘れられません。本当によくやってくれました。そしてこの日、もう一つのビッグイベントもありました。今シーズン、各種選手権や代表決定戦をフリーグホームゲームの前座試合として、(公財)北海道サッカー協会、エスポラーダ北海道の協力のもと、2試合実施したことです。6月に全日本大学フットサル大会北海道地域代表決定戦の決勝、そしてこの日は会長杯U-18フットサルリーグプレーオフを大勢の観客が見守る中開催。試合も盛り上がり、そして大学・高校世代のフットサルを多くの方に見て頂いたことは何より意味のあることになったと思っています。

今シーズン、北海道フットサル選抜として4カテゴリーのチームを編成し全国大会に派遣しました。選考され遠征する選手は全員、遠征費用は自己負担です。

当連盟でも活動費の一部は予算計上し、補助しておりますが十分な額とは言えません。そこで選手の負担を少しでも減らすことを目標に取り組んだことは、KDDI社・運動通信社が展開するコミュニケーションアプリ「ANYTEAM」に登録し、その機能の支援ツールを利用したクラウドファンディングのプロジェクトを立ち上げました。さらに男子選抜チームの活動を追ったPVをスポンサーであるJCOM社がサポートし、動画で配信。大きな反響を呼びました。今もYouTubeで閲覧できますので是非ご覧いただければ幸いです。支援額としては、男子は成功、女子は思った結果が出ませんでした。チャレンジし続けることが大切なのだと改めて感じました。

新しいシーズンも始まっておりますが、新体制のもと北海道のフットサルが、そして日本のフットサルがより活発になり人々の関心が高まるよう進めていきます。



一般社団法人
北海道フットサル連盟
専務理事 細川 貴史

生涯スポーツとしての 発展と課題



平素より北海道シニアサッカー連盟の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。北海道シニアサッカー連盟は2000年の発足以来、全道大会や各地区リーグの運営を通じて、0-40から0-70以上まで幅広い世代に競技と交流の機会を提供してきました。連盟運営は、会長・副会長をはじめ、理事長・副理事長、常任理事、理事、監事及びアドバイザーで構成する理事会が中心となり、組織的な体制のもと事業を推進しております。

こうした体制のもと、シニア種の登録状況は2000年の11チーム340名から増加を続け、2025年度には137チーム2,846名となり、全国的にも有数の規模を誇るカテゴリーへと成長しています。一方で少子高齢化や人口減少の進行により、今後は単なる登録者数の維持にとどまらず、競技から離れた層の復帰促進や新規参加者の受入れなど、構造的な拡張が重要な課題となっています。この課題に対し、2025年度は制度面の見直しを進め、親睦大会においてJFA未登録選手の参加を一部認める取組を開始しました。これはサッカーから離れていた方の復帰を支援するものであり、競技人口維持に向けた戦略的施策として位置付けています。また、これまで十分なプレー機会が確保されていなかった80歳代及び女子シニアに対して新たな大会を創設し、カテゴリーの細分化による継続参加環境の整備を進めました。さらに、高齢化に伴う健康リスクに対応するため、健康調査票の導入や血圧管理の徹底など安全対策を強化するとともに、

2026年度以降は60歳以上の登録料・参加料に対する軽減措置(シニア割)を導入し、経済的側面からも継続しやすい環境づくりにも取り組んでいます。これらの取組は、HKFA中期ビジョンが掲げる「登録者数の維持」と「グラスルーツの充実」を具現化するものであり、再開者の掘り起こし、カテゴリー細分化による最適な受け皿づくり、女子シニアの拡充、審判・運営人材の育成、地区協会との連携強化を柱に、シニア世代の充実を図っていきます。シニアサッカーは、競技力向上に加え、健康づくり、地域交流、生涯スポーツの推進という社会的役割を担っていることから、今後も「競技」と「普及」の両輪で持続可能な発展モデルの構築に努めるとともに、北海道サッカーの重要な基盤としてシニアカテゴリーの価値をさらに高めていく所存です。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道シニアサッカー連盟ホームページ：<http://h-seniorsoccer.com/>



北海道シニアサッカー連盟
理事長 佐藤 英隆

短い夏を熱くする 北海道 ビーチサッカーの魅力

この競技は砂の上で行うスポーツのひとつです。代表的な種目と言えば、オリンピック正式種目にもなっているビーチバレーでしょうか。まだまだこの競技の認知度は高いとは言えないのが現状です。

1年間で実施する大会は、第1種年代（社会人や大学生）を対象にした全道ビーチサッカー大会と北海道ビーチサッカーリーグです。それぞれの大会前日にはフェスティバルやクリニックを開催し、小学生から高校生まで広い年代に関心を持ってもらうべく発信し続けています。北海道の夏はあまりにも短く、さらに限られた場所でしか実施できないこと等、競技を普及していく苦労は絶えません。でも参加してくれたチームからは、必ず楽しかったと笑顔で言ってくれることが力になっています。

2025年度も(公財)日本サッカー協会、(一財)日本ビーチサッカー連盟(以下「JBSF」という)の支援を受け、ビーチサッカー日本代表選手や他地域の強豪チームを招聘しエキシビジョンマッチ、クリニックを実施しました。このスポーツの楽しさを伝授してもらうことに留まらず、戦術やテクニックの指導も受け、少しずつですが関心を持った仲間が増えていく事を実感しています。

2026年度シーズンからJBSF主催のJapan Beach Soccer Leagues Premierが日本ビーチサッカーtopの8チームによって熊本会場を皮切りに、リーグが始まりました。女子に関しては、日本選抜を編成しメキシコ遠征が実施され、日本のビーチサッカーが大きく変わろうとし

ています。

9地域間の競技レベルの格差は大きく、まだまだそのレベルまで到達することは出来ませんが、背伸びをせず、地に足を付け地道に活動を続けて仲間を増やしていく事が北海道としてビーチサッカーの未来の青写真を描けることに繋がると自負しています。

是非、このスポーツの楽しさに一度触れてみませんか？室蘭イタンキ浜、あそびーち石狩でお待ちしております。



北海道ビーチサッカー連盟
理事長 荒川 浩幸

札幌サッカーアミューズメントパーク (SSAP)施設ガイド

施設が歩んできた歴史と理念



2002年W杯記念
事業として誕生

2006年にJFAの助成で
建設され、現在はNPO法人
が運営しています

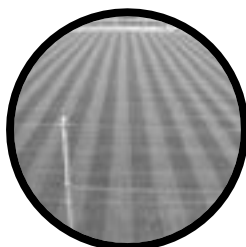
「いつでも、だれとでも、
いつまでも」



全世代がスポーツで健康維持や
交流ができる場を目指しています

施設概要と利用案内

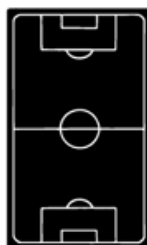
多彩なフィールド環境を整備



天然芝 (1面)



人工芝(1面)
ナイター対応



東雁来公園
人工芝(2面)



屋内競技場
人工芝
(フットサルコート2面)



予約方法

空き状況の確認はこちらから

SSAP
(天然芝・人工芝・屋内) 東雁来公園サッカー場



所在地・お問い合わせ



札幌市東区東雁来12条3丁目1-1



電話 011-791-9900